気がつけば函館市民になっていた。 Vol.18

観光都市のキャリーバッグ

驚きの旅の荷物

旅行で函館に来ていたころと比べて、市電を利用する機会が減っていたのですが、この夏はよく乗りました。つくづく驚いたのは、外国人観光客の姿が増えたことです。先日も、大きなキャリーバッグを持った中国系の若い男女を見かけました。函館駅前電停で降りようとしています。

まず男性の方が2つのキャリーバッグを重そうに提げて下車しました。その間に女性は運賃を料金箱に入れています。なるほど役割分担か、などと思って眺めていますと、降りたはずの男性がまた車内に戻ってきます。そしてもう1つ、女性の後ろにあった大きなキャリーバッグを下ろし始めました。

何と2人で3つも大きなキャリーバッグを引きずって旅行しているのです。その翌日、当社の本を置いてもらっているホテルに納品に行った際、支配人にこの話をしたところ、「そんなの当たり前ですよ」と軽く返されました。それもまた驚きでしたが、ホテルの支配人が言うのですから間違いありません。

キャリーバッグに思う

大きなキャリーバッグで旅するのは外国人観光客に限ったことではありません。私が旅行で函館に来ていた7、8年前ころからでしょうか、駅や空港で、大きなキャリーバッグを引いて歩く日本人の姿をよく見かけるようになりました。以前はキャリーバッグなど、海外旅行にしか使わなかったと思います。

当時の私は別の仕事をしていましたが、よく一緒に出張に行った得意先の若い人なども、キャリーバッグ愛用者の1人でした。確かにたくさん荷物が入り、引きずって歩けるキャリーバッグは便利です。しかし以前は旅行にせよ出張にせよ、極力荷物を切り詰めて、身軽で行動しやすくしていたはずです。

それがなぜ変わったか。ビジネスにおいては、パソコンがなければ仕事にならない、という時代になったことが大きいように思います。パソコンも小型軽量になったとはいえ、着替えや書類などと一緒にショルダーバッグに詰めると、肩に掛けたり持ったりするのが苦痛になります。

それともう一つ、昔と違って何でも便利が当たり前の時代。旅先でも日常生活と同レベルの「便利」を求めるようになった、というのもあるでしょう。今の若い人は海外旅行に行っても、まず立ち寄るのは日系のコンビニだ、という話がそれを端的に物語っています。

キャリーバッグなら、たくさん入る。これ幸いと、日常使っている身の回り品をつい詰め込む。鶏が先か卵が先か、ではありませんが、キャリーバッグと、旅先でも日常を求める気持ちが二人三脚で、旅の荷物を大きくしているように思います。ましてや海外旅行なら、土産を詰め込むスペースも必要です。

京都では由々しき問題に

京都では、観光客の大型バッグが市バスの混雑の原因となり、その結果、ダイヤの乱れも生じています。市の交通局では、バスに大きなバッグを持ち込まないよう、観光客にコインロッカーや荷物運送サービスの利用を呼びかけているようですが、強制することもできないため、なかなか埒が明かないようです。

函館も明日はわが身。そうなればどうすればいいのでしょう。さしあたっては市電の本数を増やすことでしょうか。ならば、逆に市民にもプラスになります。観光客向けの荷物運送サービスも出てきていますが、もっと普及すれば、新たな雇用も生まれます。もちろん、言うはやすしではありますが、マイナスをプラスに転じるような名案を、そろそろ考えなくてはいけないようです。

荷物の巨大化は止められない?

★プロフィール★

大西（おおにし） 剛（つよし）さん

1959年生まれ、大阪出身。2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組む。本年は、スマホに頼らず函館情報を携帯できるよう、既刊の本格的函館案内書『市電でめぐる函館100選』を分冊・豆本化。